

特殊化学品製造受託で実績



増井國彦社長

「年商45億円の当社が20億円を投じて新工場を建設した。社運を賭けたこのプロジェクトに身の引き締まる思いだ」。市街化が進む愛知県知立市の既存工場を代替する生産の新天地を求め岐阜県美濃加茂市に進出した化学品受託製造会社、黒金化成の増井國彦社長は、本社（名古屋）で、竣工式で報道陣に配布した資

黒金化成

料に目をやり、こう切り出した。

同社に化学品の生産を委託するのは、フラットパネルディスプレイ（FPD）や半導体の製造に使う特殊な化学品だ。そのFPD業界は、液晶の高精細化や有機ELの開発競争の本格化、半導体分野では配線の微細化で過酷な技術競争が繰り返られ、こうした顧客の厳しいニーズにきめ細かく応えるため大型投資を決断した。

新工場を建設したのは

工業団地「ぎふ・みのかもテクノパーク」。1万9

000平方メートルの用地を購入し、1期投資でその半分を活用して合成棟や倉庫、管理棟などを設置した。10000〜50000リットルの反応釜（ガラスライニング製）13基、1500〜6000リットルのステンレス製釜7基などを導入し生産能力を1.4倍に引き上げた。来年5月から知立工場の運用ファイン製造用既存設備を新工場に全面移設し美濃加茂を量産拠点として整備し

ていく（増井社長）。

同社は2006年、知立市の既存工場の近くに立地するテクノニカルセンター「KTC」の増設を10億円投資して実施。クリーンルーム内へのメタリイオンの溢出を防ぐ遠心分離機・乾燥設備、超純粋製造装置などを導入し、ppbレベルのメタルフリー、ガストフリー製品の安定供給を可能にし、高度なコンタミ対策などが顧客から評価されている。

岐阜に新拠点、能力4割増